

## 第7回宝塚市手話言語施策推進会議 議事録

日時：令和2年2月13日（木）18：30～20：45

場所：宝塚市役所2階 2-3会議室

### 【次第】

- 1 令和元年度実施事業（手話関連）の状況報告と今後について
- 2 啓発について
- 3 第2回宝塚市手話言語発表会について
- 4 その他

### 【配布資料について】

- ・資料 宝塚市手話言語施策推進会議委員名簿
- ・資料1 令和元年度事業実績報告について
- ・資料2 宝塚市手話言語条例施行後の取り組み（令和元年（2020年）2月12日現在）
- ・資料3 「第2回宝塚市手話言語発表会」第10回実行委員会（報告）
- ・資料4 「宝塚市手話月間」取組内容
- ・資料5 第6回宝塚市手話言語施策推進会議議事録

### 【出席者】

委員 関西学院大学人間福祉学部非常勤講師 平 英司  
宝塚市手話サークル連絡会 会長 田中 準子  
宝塚市難聴言語障害児親の会 理事 西田 恵津子  
宝塚市身体障害者福祉団体連合会 会長 志方 龍  
宝塚ろうあ協会 手話対策部長 加藤 めぐみ  
宝塚商工会議所 中小企業相談所 所長 胡中 美伸  
（庁内関係者） 赤井健康福祉部長、他

### 【欠席者】

宝塚市教育委員会事務局 学校教育室特別支援教育担当 副課長 角谷 純子  
※順不同

### 【協議録】

（事務局）

まず、健康福祉部長の赤井よりご挨拶を申し上げます。

（事務局）

健康福祉部長の赤井です。本日は大変お忙しい中、また遅い時間からの会議にご出席いただきありがとうございます。第2回宝塚市手話言語発表会には多くの方に参加いただき、発表会が出来ました。3月は手話月間を進めていきたいので、皆さんからご意見をいただき、新たな気持ちで手話の取り組みを進めていきたいと思っています。

（事務局）

続きまして、本会議の主旨を改めて説明します。本会議は、宝塚市手話言語条例第6条の規

定に基づき、市が推進する施策の実施状況見直し等について、広く市民や事業者、知識経験者の方々にご意見をお聞きするため開催するものです。

(委員)

議事に入ります。

(1) 令和元年実施事業(手話関連)の状況報告と今後について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料1 (ア) 手話講座関連。市民向けと職員向けがあります。例年通りの取組です。

市民向け、初級講座5月が16人、10月が25人。中級講座5月が46人、10月が31人。読み取り講座、昼が38人、夜が27人。トータルコミュニケーション講座、初級19人、中級5人。手話検定試験対策講座6回講座が13人。全国手話通訳統一試験対策講座5回講座が3人という状況です。職員向けとして、新人職員研修、初めての手話クラス、ステップアップクラス、簡単な挨拶と歌ってみようをしています。それに加えて、逆瀬川保育所のパートの職員向け研修を11月28日に行っています。単発指導講師の派遣として、民生委員・児童委員連合会啓発講座が5月12日に行なわれました。宝会館こども教室、良元コミュニティ、高司小学校区まちづくり協議会、逆瀬川保育所、仁川小学校区街づくり協議会に講師の派遣を行っています。学校側の予算で、高等学校が4校、中学校が2校、小学校が6校手話の講座を実施しています。

(イ) 手話による絵本の読み聞かせ「手話で楽しむ絵本の世界」平成31年3月から始まり、この時は一番参加者が多くて80人。そのあと30人前後の方にご参加いただいております。子どもは8月と9月には3人参加、それ以外の月は1人あるかどうかです。12月12日学校教育課主催でわくわくまつり創造講座、これは年間で12講座あるもので、その1回を「手話で楽しむ絵本の世界」を取り上げていただきました。参加者は32人の小学生で、アンケート等で好評だったと聞いています。

(ウ) “手話言語条例パンフレット配布”について、

民生委員・児童委員連合会啓発講座で200部、市内公立小学校4年生全員に2,107部、生活協同組合コープ神戸の方に700部、市内私立学校関西学院初等部634部、小林聖心女子学園小中高に1,176部、雲雀丘学園小中高に2,379部配布しました。

宝塚市役所新人職員研修で71部配布、宝塚市役所職員研修で87部配布予定です。

(委員)

手話言語条例パンフレットに対しての反応、効果はありませんでしたか？

(事務局)

地域の単発指導で何度も依頼くださるところは、もうパンフレットはいらないですと言われるので、新規で配る場所を検討する必要があります。各学校からの反応は特に聞いていません。業者さんでは、コープ神戸の仁川店から始めて、逆瀬川など他の店に広がってほしいと思って多めに持って帰っていただきました。5月の民生委員・児童委員連合会啓発

講座をきっかけに手話言語発表会に参加いただけたと考えています。

(委員)

きっかけがあれば手話が広がると思います。配布していないところに手話が体験できるよ、学べるよとアピールできる方法はありませんか？

(委員)

パンフレットを病院の待合室に置くのはどうか。毎年、耳の日の相談会の医療相談を通して、医師会とは前から関わりがあります。パンフレットをお願いしてもいいと思います。

(事務局)

医師会に加入している病院にはすでに配布しています。しかし、聞こえる人がいないと困る。聞こえる身内の連絡先がほしいと言う病院もまだあります。手話言語条例ができ、差別解消で本人の意向に沿う治療があたり前になっていくべきです。パンフレットをお渡しして説明する必要を感じます。いろんな病院に手話通訳の同行を認めてもらえるように、差別解消チームと一緒にいる必要があると思います。

(委員)

まだまだ差別が残っている現状を知りました。そのお医者様は手話でのコミュニケーションができることを知らないのか、知っているけれども手話通訳者など第3者が間に入ることへの不安があるのでしょうか？手話通訳に対する理解をしていただければいいですが、知った上で通訳者がいることに違和感を持っておられるのでしょうか？

(事務局)

病院と直接話していないので分かりません。一方、緊急携帯を使い夜中に、手話通訳者が同行して受診したことも数回あります。いくつかの原因が重なってそういう対応をしてしまうのだと思います。

(委員)

ろうあ協会は1年に1回宝塚市立病院で懇談をして、理解を進める努力をしています。問題はその他の個人病院です。少しずつでも活動を通して理解していただく必要があります。障碍福祉課として差別的な事例や相談があった場合の対応はどうしていますか？

(事務局)

障碍福祉課の差別解消の担当の職員が対応します。過去にも聴覚障碍の相談で対応しました。設置通訳者と連携を取りながら対応していく必要も出てくると考えています。

(委員)

市立病院ではよく理解されていても他の病院では理解がないではなく、末端の一人のお医者さん、看護師さん、受付の人までもが理解していただけるように。宝塚では手話があちこちで見られると言われるように取組む必要がある。パンフレットも個人が見て貰えるようにするためにはと考えると、3月の手話月間をどのようにするか考えるのがいい。この前、ぷらざこむで「音のない映画」上映会をしました。下の事務所の人には声を掛けたが、1階で新聞を読んでいるおじさんには声を掛けにくかった。すごく後悔しています。そういう人た

ちにも声をかけられる雰囲気、自分たちのものだと思わないでアピールすることに力を注ぐように頭を切り替えていかなくてはいけない。パンフレットを渡すだけでなく、伝える方法を考えていかなくてはと思います。

(委員)

以前の電車の中では、友達同士手話で会話するとじろじろ見られて恥ずかしい雰囲気だったが、最近は視線が気にならない。病院で「手話通訳者はちょっとね」と言われ、「親戚を呼んで」等と言っていることが恥ずかしく思うようになればいい。いろんなアピールをして手話が普通にある、当たり前にある宝塚市になればいいと思う。そのためにも手話言語発表会、手話言語講演会、手話月間、手話指導、絵本の読み聞かせなどが大切だと思っています。

(事務局)

(2) 宝塚市手話言語条例施行後の取り組みについて資料 2 とありますが、今回の取り組みについては資料 1 で説明しております。続きまして、資料 3 をご覧ください。

議事(3) 第2回宝塚市手話言語発表会について、第10回実行委員会(報告)のとおり皆さんのご協力により大盛況で終わることが出来ました。反省会の内容についてご報告します。(1) 参加人数、約450人。市のホームページにおいて発表会の様子を動画配信しました。すでにアップしています。(2) 第2回宝塚市手話言語発表会の反省等について参加いただいた方からのご意見を抜粋してご紹介します。①宝塚市難聴言語障害児親の会から、第1回目に引き続き、参加できてよかった。参加したみんなが楽しかったと言っていた。第3回目には自分も出場したい。みんなで助け合って築き上げられたのがよかった。1回目は事務局が主に準備していたが、第2回目では実行委員会の方にもたくさんご協力いただいたのが良かったのではないかと考えています。②宝塚市手話サークル連絡会から、ボランティアの集合時間が早すぎて時間を持て余した。次回に活かしていきたいと思います。車いす席は中央にあったので満席になると途中から入れず、ドア付近がよいのでは。良かったことの反面、人数が多かったので、入り口付近から中に入りにくかった。今後考えていかなくてはいけないと思っています。③舞台入場係からですがスムーズだったということです。④記録係から、ビデオはうまく撮ってくれていたのが編集がしやすかった。編集については手話と読み取り通訳の終わるタイミングが違うので気をつけなければならない。⑤司会から司会台が高くて上り下りが大変だった。もう一段低い台を用意しようと思います。代読については実行委員会の中でも議論しました。今後は当日登壇できなければ、出場できないと募集要項にも記載するという意見が出ていました。第3回の実行委員会の中で取り扱いを決めていくことになっています。

アンケートの回収率が低いことが課題になっています。対策として、①最後にアンケートに記入する時間を作る。②設問を簡潔にするなど工夫をする。③出場者分は後日回収する。④ホームページ等にアップしてメールで提出してもらう。⑤<sup>がい</sup>障害福祉課の前に回収箱を置き、後日提出してもらうなどの意見があり、今後に生かしたいと思います。

ピアノについて今回はタイムスケジュールの都合上、ピアノを浮かせて移動し、浮いたまま

利用したため、ピアノが演奏途中で動くから支えてほしいと声があり、人力で支えました。今後は固定していく方法で考えたいです。使用するグループの順番をまとめるとか、時間がかかることを念頭に置いてスケジュールを組むなど工夫したいです。

会場の定員に比べて参加人数が多く、開始直後から満席で案内が難しかった。車いす席を中央にしていたため途中からの案内が難しく、会場の選定を含め次回の課題になります。手話言語発表会は2年に1回の開催です。来年度は手話言語講演会を予定しています。

(委員)

大きな問題は特にはなかったですね。次にもっと盛り上がるための前向きな課題だったと思います。3回目の発表会に向けてよろしくお願いします。

(4) 宝塚市手話月間について、初めての試みです。

(事務局)

資料4をご覧ください。

前回の手話言語推進会議でも案内しましたが、内容は今後の流れです。2月19日の定例の記者会見で市長から各マスコミに発表します。その内容がこの資料4です。

月間の周知

- ・庁内グループウェア「掲示板」に掲載する。市役所の職員が情報共有するものの中に掲示板があり、そこに3月の手話月間を職員に向けて発信します。

- ・庁内グループウェア「ライブラリ」に手話動画を追加して職員に発信します。

- ・市ホームページに手話動画を掲載する。これまでもホームページには宝塚市歌や手話言語発表会をアップしていましたが、グループウェアの中に入れていたものや窓口サービス課にあるテレビモニターに流す動画も共通してホームページに掲載します。

- ・市の幹部職員の会議である月曜会及び総括課長会議で報告し周知を図ります。

- ・市の広報誌に月間について掲載します。

- ・市内の掲示板にチラシを掲示します。

- ・FM宝塚に出演を予定してします。市長が3月1日と8日に2回出演したものが流されます。3月6日には障碍福祉課の職員が出演することになっています。計3回出演予定になっています。

- ・チラシの配布(市内公共施設、各課、市内関係福祉団体等、市内各部局イベント開催時等で配布予定。障碍福祉課だけでなく、市役所内部のほかの部局でのイベントでも配布を依頼していこうと考えています。)

- ・手話啓発

「手話のことを知ろう！」手話に関する図書や資料を設置します。市の図書館にコーナーの設置や市役所1階の市民ホールに掲示したいと思っています。宝塚ろうあ協会と宝塚市手話サークル連絡会に掲示するもの等のご協力をお願いしています。

- ・手話学習

「手話を学ぼう！」として手話学習コーナーを設置し、簡単な手話を学ぶことを考えていま

す。実施日は月、水、金の週3日、時間は12:10~12:40の30分間。講師は、当事者、登録手話通訳者にご協力いただきたいと思います。実施場所は市役所のグランドフロアの展示コーナー市民ホールのらせん階段の下のスペースです。対象はその日に来られている市民の方に庁内放送や掲示物、ホームページ等でアナウンスしたいと思っています。

「手話に触れよう！」テレビモニターに手話動画を放映します。市役所1階の窓口サービス課の待合のスペースにテレビモニターを置いています。そちらに手話に関する新たに作成した手話動画の放映を考えています。

・各課での朝礼の時または課内での会議の際に簡単な手話を学びます。ライブラリに掲載している手話を1~3つ程度各課でセレクトする。グループウェアにアップしているものを抜粋して、手話に触れる機会を作ってもらおうと思っています。

表の右側に○がついているものは月間以降継続して実施していきたいと考えています。

○がついているものは庁内グループウェア「ライブラリ」の手話動画、市ホームページの手話動画、「手話に触れよう」の窓口サービス課のテレビモニター、朝礼時に簡単な手話を学ぶ機会は継続的に実施していきたいと考えています。

(委員)

たくさん取組を取りまとめていただいて大変うれしく思います。手話学習の中の手話を学ぼうの対象は市民ですが、帰ったら忘れてしまうかもしれないので、簡単な資料の配布等考えていますか？各課での朝礼時に簡単な手話を学ぶのは市役所内部だけですか、外部の方にもこの取組や選んだ単語を知らせていくのですか？

(事務局)

「手話を学ぼう」の資料ですが、持ち帰るものがあるほうがいいと思います。宝塚ろうあ協会と宝塚市手話サークル連絡会に相談して、今あるもので配布を考えたいです。朝礼時に簡単な手話を学ぶについてですが、基本的には庁内だけを考えています。職員に手話が浸透していないので、まずは職員に。ゆくゆくは各窓口にもつなげていきたいと思っています。

(委員)

資料配布ですが、宝塚ろうあ協会の資料はあります。宝塚市手話言語条例のパンフレットにも簡単な手話があるので、それを使ってもいいと思います。朝礼時の手話は内部ですることは分かりました。どこの部署がどういう手話を選んだか、宝塚市全体での取組の雰囲気分かるようにホームページなどに上げ、市民にこういった取組をしていることがわかるようにしてもらえるといいと思います。

(委員)

以前、窓口で職員がお客様に「おはようございます」、「こんにちは」を手話ですていくと聞いた気がするのですが、そういうこともしていくのですか？

(事務局)

全庁的に周知、徹底するにはもう少し時間がかかると考えています。次年度以降の課題です。そのために、日頃から手話に慣れていくことを庁内で周知していきたいと考えています。

(委員)

窓口で手話をすることは見送るということですね。分かりました。

(委員)

3月の手話月間のチラシの内容はまだ決まっていますか。

(事務局)

今、作成中です。一つの目的は、3月を手話月間としてやっていくことを周知すること。それ以外にアナウンスできるものを盛り込みたいです。地域の方から手話講座等の依頼があったときに、市で講師派遣費用を出す出前講座などの案がありますが、検討中です。

(委員)

手話の啓発「手話のことを知ろう！」のところを宝塚市手話サークル連絡会の会議で相談をしています。模造紙は自分たちで用意しないといけないですか？3月1日の午前中に耳の日の大きなイベントがあるので、お昼から運ぶことになるのか。また、記念誌を見られるように置いてはどうかという意見が出ました。ただ、本はそのままの状態にしておくのか、紐でくくっておくなどの意見が出ました。本をそのまま置いておくのは心配があります。

(事務局)

図書も含めて置けたらいいと思いますが、市民ホールは見張りなどの警備はしないので、紛失等も念頭におきながら、どういった置き方にするのがいいか考えたいです。なくなってしまうものは置きにくいです。今、他の部局が市民ホールで展示をしていますが、イメージは同じです。市役所の使える日にちが3日火曜日から30日月曜日までです。その前後は他の部局の予約が入っています。障碍福祉課で預かれるものは預かります。模造紙も用意します。図書館は各図書館のイメージでコーナーを作っていただきたいです。2月19日に市長定例記者会見で発表されることを踏まえて作っていただければと思います。月間であることとスローガンを掲げてもらう作業を図書館にお願いしないといけないと思っています。

(委員)

手話月間をしているところは、近隣市や兵庫県ではありますか？神奈川県は教育委員会で月間をしています、やることになったいきさつを教えてください。

(事務局)

手話月間を作ろうというお話しはまず市長からです。それをもとに何月に実施するかで調べましたが、神奈川県は5月に月間を作っています。これは市民ではなく主に学校での取り組みです。国際連合が手話言語の国際デーを9月に設けています。それがもう一つの候補になりました。障害者週間は12月の3日から9日までであり、内閣府が掲げている週間です。私たちは手話と障碍者を切り分けて考えていますので、あくまでも参考の一つに取り上げました。もう一つの候補は、今回のきっかけになった耳の日が一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会が提案し、制定された3月3日。今回はその3月3日が含まれている3月を宝塚市の月間にしてはどうかというところからです。

(委員)

月間の継続については？

(事務局)

手話月間は今年度スタートして、来年度以降も毎年継続して取り組んでいく予定です。兵庫県加東市では月間ではなく1週間程度の取り組みを考えていると聞いています。

(委員)

手話月間より、できれば2020年手話月間としてはどうですか。他との整合性もあるが、年度を付けないと単発で終わるイメージがある。継続性が見えるようにと手話言語発表会も第〇回とした。単に月間であれば試しにしているだけと取られかねないと思います。

(事務局)

他の市でしている月間との整合性を図りつつ、今後も続いていくのが分かるような方法で考えたいと思っています。

(委員)

神奈川県と加東市の二つが手話月間もしくは週間をされているとのことだが、市役所で手話月間をするのは珍しいですね。宝塚市から積極的にアピールして新聞などに掲載されるように働きかけるのはどうでしょう？

(事務局)

2月19日に定例記者会見で市長のほうからマスコミに発表します。

(委員)

この時に新聞社も来られるのですね。予算の関係かルールの関係でできるかわかりませんが、市役所の建物の外に手話月間の布製の垂れ幕をするのはどうでしょうか？市役所に入れば掲示板で手話月間をしていることがわかりますが、市役所に入らなくても手話月間をしていることが分かるように、今年は無理でも、今後実施してほしいです。

(事務局)

垂れ幕、のぼりでイベントを周知するのはよくあります。よくあるのが横長の垂れ幕を壁際に設置し、その月間の間は設置しておく。武庫川沿いにのぼりを立てて啓発するなどがあります。今年度来年度は難しいですが、再来年度に向けて考えていきたいと思っています。

(委員)

よろしくお願いします。今回は<sup>がい</sup>障害福祉課が中心で企画を考えていただきましたが、次回は教育委員会と連携してほしいです。学校の中でも3月は手話月間があるという雰囲気をもってほしいです。神奈川県の実例ではありませんが、同時進行で、来年は他の課との連携も増やしてほしいです。2月19日に市長が記者会見でマスコミに発表する時は全部手話でしていただきたいです。マスコミも驚くと思います。手話月間の今後の課題はチラシ作りと宝塚ろうあ協会、宝塚市手話サークル連絡会との日程調整ですね。引き続きご協力をお願いします。特にチラシはシンプルで分かりやすいことが重要だと思います。見て行ってみたいと思えるチラシをぜひお願いします。私たちも確認をさせてもらい、アドバイスもできるかと



思います。

(委員)

(5) 令和2年度宝塚市手話言語講演会についてお願いします。

(事務局)

令和2年度の手話言語講演会については、時期は秋以降で考えたいと思っています。手話言語発表会を11月にしたので、案の一つは11月です。講師は現時点では全くの白紙です。

この会議で案があれば頂戴したいです。会議の後で良い案があれば年度内に<sup>がい</sup>障害福祉課まで教えていただきたいです。講師について予算の都合があるので近隣で来ていただける方を中心に検討したいと思っています。

(委員)

手話言語講演会1回目は薬剤師の柴田さんに講演していただきました。次回はどんなテーマがいいでしょうか？勉強会が目的ではなく、手話を広めることが目的なので、難しい話ではなく手話を知らない市民の方にも参加しやすい講演がいいのではないのでしょうか。

(事務局)

もともと柴田さんをお願いしたのは、薬剤師である柴田さんでも思考する時は手話言語でしていることをアピールしたかったからです。国家資格の薬剤師さんだから当然日本語で思考していると思っていましたが、柴田さんは手話が第一言語で、手話で思考していること。論文を書くときは、手話で思考してから日本語に変換して書いていること。その日本語も上司に添削してもらっているということなど。普段日本語を使っている方が英語で自由に会話できないのと同じように、手話を第1言語とする人たちには手話が必要だ、日本語で書けばいいという問題ではないことを理解してほしいと思い、あえて柴田さんをお願いしました。聞かれた方は、書けばいいということではないことがわかったと言っていました。手話は言語だということをアピールできる人がいいと思います。

(委員)

講演会での狙いは、手話を第1言語とする方からのお話を聞いて、手話を知らなかった人たちに啓発できるようにすることです。

(事務局)

3月の終わりまでに何か気づいたら事務局まで連絡をお願いします。事務局は4月以降に改めて打診に入ります。第6回宝塚市手話言語施策推進会議議事録を添付しております。資料5をご確認ください。次回は令和2年7月16日木曜日18:30~20:30です。